

平成20年度あいち森と緑づくり関係事業の実施状況について

I モデル事業関係

◎あいち森づくりモデル整備事業（森林整備）

1 事業の目的

「あいち森と緑づくり税」の導入とそれを活用した施策の実施にあたり、施策の一部を先行してモデル的に実施することで、森林所有者を含めた県民に対してより具体的なPRを行うとともに、本格実施前に事業実施上の課題の整理、調整を行う。

2 実施状況

	実施箇所	区分	面積 (ha)	樹種	林齢	完了 予定日	所有者数 (不在村)	備考
豊かな生命の森整備モデル事業	岡崎市宮崎町地内	奥地	2.84	スギ ヒノキ	約30年	3/10	5 (3)	
	岡崎市石原町地内	公道沿	2.81	スギ ヒノキ	約30年		2 (0)	
	豊田市小渡町地内	奥地	2.54	スギ ヒノキ	30～ 50年	3/16	1 (0)	
	豊田市牛地町地内	公道沿	2.47	スギ ヒノキ	30～ 40年		3 (2)	
	東栄町中設楽地内	奥地	2.37	スギ ヒノキ	26～ 59年	1/30	5 (2)	作業道 458.8m
	豊根村下黒川地内	奥地	2.18	スギ ヒノキ	47～ 55年	1/30	3 (2)	作業道 468.0m
	設楽町清崎地内	公道沿	2.40	スギ ヒノキ	41～ 58年	1/30	4 (3)	
	新城市下吉田地内	奥地	3.15	スギ ヒノキ	20～ 54年	1/30	21 (6)	一部共有 一部個人
	新城市作手菅沼地内	公道沿	2.51	スギ ヒノキ	20～ 50年	3/10	6 (1)	
		小計		23.27				50 (19)
里山林再生整備モデル事業	春日井市松本町地内	里山林	0.20	広葉樹	30～ 50年	3/17	1 (0)	大学所有
	田原市加治町地内	里山林	2.64	広葉樹	30～ 50年	3/17	1 (0)	自治会所有
		小計		2.84			2 (0)	
	計		26.11					

3 成果等

- モデル事業地の整備により、所有者に実際の整備後の森林を示すことで、理解が進み事業の効果的な推進が可能。
- 40%の間伐率を具体的に示すことにより、所有者がイメージでき、理解がすすむ。
- 県の職員が直接行き、実行上の以下の問題点等が明らかになった。
 - ・ 市町村、森林組合の協力が不可欠
所有者や対象森林の確認作業には市町村、森林組合の協力が不可欠
 - ・ 不在村所有者が多い
不在村の所有者が多く、交渉等に時間を要する
 - ・ 40%の間伐率への理解
40%の間伐率に対して所有者の理解を得るために、現場で時間をかけた説明が必要
 - ・ 作業道の承諾が別に必要
作業道は事業対象地以外の森林を通過するため、作業道対象森林の所有者にはメリットが少なく、理解が得られにくい。
 - ・ 事業認知のためのPRが必要
県が主導で所有者に理解を求めるのに時間を要するが、事業認知が進み、森林所有者や地域、森林組合からの要望が多くなれば、効率的な推進が可能
 - ・ 里山林の整備内容
里山林は整備内容により事業費が大きく変動し、現場に合わせた予算調整が必要



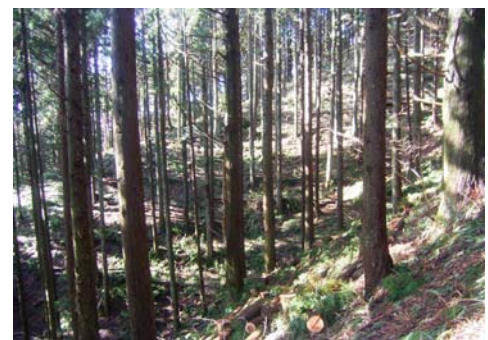
【公道沿い・落下防止対策】



【公道沿い・交通整理状況】



【間伐作業状況】



【間伐実施後】

◎都市の緑モデル事業

1 事業の目的

平成21年度から着手する「あいち森と緑づくり事業」では、山から街まで緑豊かな愛知をめざして森林、里山林、都市の緑をバランスよく整備・保全していきます。

今年度は、この事業を県民に周知するため都市の緑モデル事業を実施します。

2 事業の内容

会場	東海市	安城市(実施済)
場所	元浜公園、環境保全林予定地 (元浜町、養父町)	池浦西公園 (池浦町 現在の倉西公園)
日時	平成21年2月28日(土) (予備日 3月1日)	平成20年11月15日(土)
協力団体等	緑化指導 横浜国大 宮脇名誉教授 東海市内企業 等	エコネットあんじょう (安城市の市民団体等から構成される地球温暖化対策地域協議会)
連携事業	東海市「21世紀の森づくり」事業	
参加人数	約3,500人	200組(約500人)
植樹面積	約19,300㎡	約1,000㎡
内容 (予定含)	<ul style="list-style-type: none"> 宮脇方式での苗木の植樹による臨海工業地帯の緩衝帯となる環境保全林整備(「21世紀の森づくり」事業が中心) テントブースによる緑の普及啓発 	<ul style="list-style-type: none"> 苗木の植樹による公園の樹林地整備 テントブースによる緑の体験学習及び緑の普及啓発



【安城市での開催状況】

◎緑の教室モデル事業

1 事業の目的

緑のカーテンの普及に向けて、県内小中学校の協力を得てモデル事業を実施し、課題の整理及び環境学習プログラム及びテキストを作成する。併せて、リーフレットを作成し、広く一般に緑のカーテンの育て方や効果をPRし、普及啓発を図る。

2 事業の内容

(1) 「緑のカーテン」の生育実習(5月から10月)

モデル校で「緑のカーテン」を設置し、児童・生徒を中心として植物の生育、観察を行う。学校ごとに異なる植物種(アサガオ、ゴーヤ、ヘチマ等)を使用するとともに、直植え、プランターを使い分け、育て方や室温低下効果などのデータを収集する。

- ・実施校：一宮市立浅野小学校始め5校(5市)

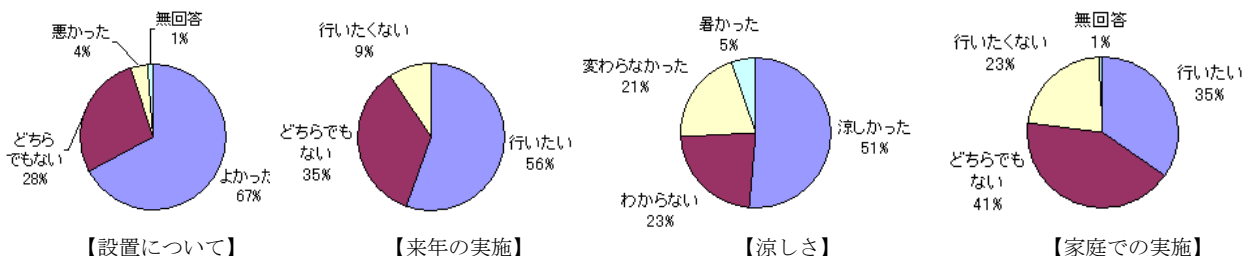
(2) 環境学習プログラム(出張講座)の試験的实施(7月から9月頃)

地球温暖化防止活動推進員が講師となり、生育実習で育てた花や果実等を用いた環境学習を実施する。

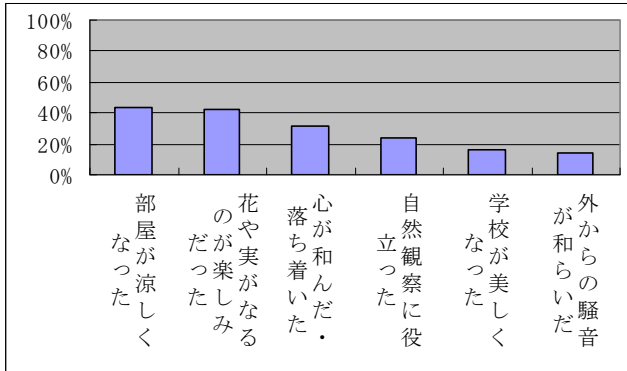
- ・環境学習の内容：緑のカーテンの効果測定、押し花づくり、草木染め、エコクッキング

実施した結果を踏まえて、緑のカーテンの環境学習プログラムやテキスト、リーフレットを作成し、その普及を図るとともに、緑の効果や大切さをPRしていく。

【児童・生徒へのアンケート結果(意見、感想等)】



○ よかった点



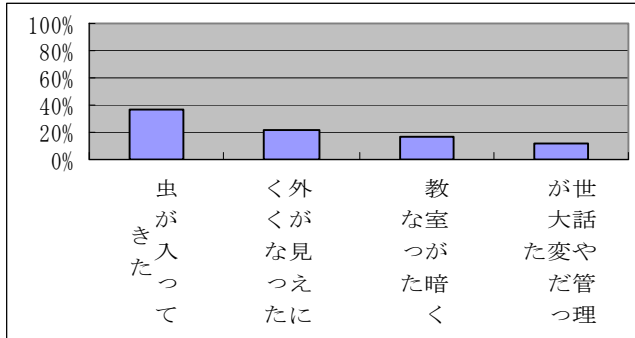
(その他 (中学生))

調べたりすることなど楽しかった
ゴーヤの実を食べることができた
直射日光を防いでくれた 等

(職員感想)

総合的な学習に役立った
日除けになった
植物に興味を持つ子がいた 等

● 困った点



(その他 (中学生))

枯れてくると見た目が悪い
枯れ葉が教室に入ってきて掃除が大変だった
ゴーヤのにおいが気になった 等

(職員感想)

教室が暗くなり、一日中電灯をつける必要があった
成育の時期が夏休みの時期となりタイミングがずれてしまった

緑のカーテンの生育実習



環境学習講座 (エコクッキング)



Ⅱ 普及啓発関係

(1) 体感ツアーの実施 (79人、10月25日・26日)

間伐体験、森林、里山林、都市緑化事例見学

【体感ツアー参加者へのアンケート】

- 1 森林や都市の緑の働きや現状、問題点の理解
○良く及びだいたいを含めると全員理解できた。
- 2 あいち森と緑づくり税導入について
○約1/3以上が知っていた。ツアー終了後は、参加者の理解が得られた。
- 3 主な感想等
○森林や緑の必要性が理解でき、間伐という貴重な体験が出来た。行事を継続してほしい。
○子供から大人まで各年代が参加できる工夫を。

(2) PRパネルの設置、パンフレット等の配布

県植樹祭(5月)、あいちまちづくりシンポジウム(6月)、あいちの農業用水展(7月8月、10月)、建設技術フェア(10月)、農林水産フェア(11月)、人と自然の共生国際フォーラム(11月)等

(3) 広報等

県ホームページ(アップ済)、広報あいちタブロイド版 220万部(12月)、市町村広報誌、県政世論調査(7月)等

(4) ポスター作成、掲示

(5) その他説明会等

愛知県保険医協会学習会(7月)、連合愛知政策懇談会(8月)

愛知県市部農業委員会長会(10月)、森林所有者向け地区説明会(新城設楽地区 46回)等



【体感ツアー：間伐体験】



【体感ツアー：都市の緑】